

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人になつて。
大阪教育大学

01 「教師になつて」修了式

02 リレーエッセイ

03 交流事業の紹介

04 加盟校出身学生・卒業生の紹介

05 加盟校の取り組み紹介

06 大学トピックス／編集後記

教師をめざす高校生育成プログラム 「教師になつて」修了式

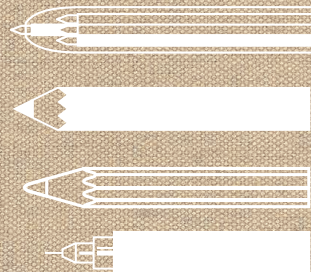
教師をめざす高校生を対象とした特別プログラム「教師になつて」修了式を、10月28日に行いました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ

「今」と「社会」が、
教師としての基礎大阪教育大学理数情報講座
片桐 昌直

皆さんは、教育や教員に関心があることからこのレターを見られていることと思います。そして教育系の大学へ進学することを目指して日々勉強されていることと思います。

そこでこれからの勉強について、お話ししたいと思います。まず、小学校の先生、中学校の先生、高校の先生は、それぞれ求められる資質、能力が違います。高校であれば、特定教科の専門性が強く求められますし、小学校であれば、全教科に対応しなければなりません。しかし、これらの資質の基礎は、実は全て高校の授業や活動にあります。小学校の基礎が高校？と思われるかも知れませんが、教科の狙いや、全体像を理解することは、高校の学びの土台があって初めて出来るのです。教師は、単に教科書の内容を伝えるだけではないのです。これからはAI（人工知能）などが発達し、人は単なる知識ではなく、より深い理解が問われることになると言われています。もちろんこれは、知識がいらないう意味ではなく、知識を理解しいかにつなげるか、活かせるかが重要になるという意味です。従って、皆さんも高校でしっかり学ぶとともに、学んだ知識をつなげ、活かす活動、体験を積極的にしてください。

そのためには、広い視野を持つことを意識してください。特に社会（世の中）に目を向け、皆さんが学んだことが、どのように社会で活かされているかという視点で、ニュースや新聞、報道に接してください。そうすると、単に試験のための勉強ではなく、自分が生きていく上での勉強や知識であることがわかり、知識がつながってきます。また、社会を知ることが教員になる上でも非常に重要なことです。皆さんが将来、教え、接する子どもたちも、必ず社会に出ていきます。社会でどう生きるかが重要です。その際に、教える先生が社会を知らないと学びの意味が伝わらないのではないのでしょうか。

例えば、理科の場合、理科の面白さを伝えることも重要ですが、さらに理科を学ぶことがどのように社会とつながるのかも含めることで、なぜ理科を学ぶのか、学ばないといけないのか、に対する答えに

もなると考えます。他の教科も同様でしょう。これらを子どもたちに伝えられるかどうかは、今の皆さん自身の教科に対する思いや考えが基礎となります。もちろん大学でも教科について学びますが、それはさらに進んだ内容や、教え方に関わることで、教科の基本は高校までが基礎となります。是非教育に関わる活動とともに、各教科の勉強もしっかり行ってください。大学に入ると後ろを振り返る時間はありません。教育系の学部・学科であれば教師への道を進むことになります。つまり、教師として必要な知識の習得や、体験を積むことになります。

実は、これまでお話ししたことは、教師志望の人だけでなく、今後の一般の大学入試にも関係しています。どの大学もほとんどの卒業生が社会に出ていきますから、社会に対する人材（教師も含め）を育成していることになり、これからの社会に必要な能力を持った人に入学会してもらい、それをさらに伸ばして卒業してもらう必要があります。従って、単なる知識だけでなく、それらを結びつけて社会的課題を解決できる人か、主体的に（積極的に）協働して学べる人かを、入試で判断するということになりつつあるのです。

教師という職業は、この主体性や協働性も重要な資質であると言われています。なぜなら、社会の変化とともに教える内容や方法が変化するため、常に「学び続ける」必要があり、かつこれらからの学校では、他者と協働しながら教育を進めていくことになるからです。

このように書くと大変な職業と思われるかもしれませんが、子どもたちの成長は、これ以上の楽しみでもあるので、先生方も日々努力されています。

最後に、繰り返しになりますが、勉強も含め今の高校生活を大切にしてください。大切にされた方ほど、きっとより良い教師になれると思います。将来、大学や学校現場で皆さんにお会い出来ることを楽しみにして、筆をおきます。

片桐 昌直 かたぎり まさなお
大阪教育大学理数情報講座教授



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

府立高校生200人が大学の魅力を体感 「大阪教育大学キャンパスガイド」

大阪府立高校42校で構成する「府立高校教職コンソーシアム」加盟校の生徒らを対象に、「大阪教育大学キャンパスガイド 大教大をまるごと体験しよう！」を10月28日(日)、柏原キャンパスで開催し、約200人が参加しました。在学生による大学紹介や施設見学ツアー、大学教員による特別講義など、本学の魅力を伝える様々な催しが行われました。

イベントは、教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コース学生の金管アンサンブルによる演奏で幕を開け、和田良彦副学長が歓迎の挨拶を述べました。続いて在学生4人が先生と生徒に扮して、大学の特徴やカリキュラム、学生生活などを授業風に紹介。その後高校生たちは、10人程度のグループで講義室や体育館などを見学し、食堂で一緒に昼食をとりました。

午後からは、文系と理系に分かれて特別講義が行われました。箱崎雄子准教授(英語教育講座)に

よる「発音の基礎・基本 —これだけで英語らしく聞こえる—」では、シンガポールやインドなどアジア英語の特徴から、英語らしく聞こえる発音のポイントが解説されました。町頭義朗教授(理数情報講座)の「論理と数理パズル」では、「いくつかの黒玉と白玉が入っている箱から玉を2つ取り出す。その2つの色の組み合わせに応じて、黒か白どちらかの玉を1つ箱に入れる。これを箱の中身がなくなるまで繰り返すと、最後に残るのはどちらの色か」というパズルに取り組み、数学的に考える方法を学びました。そのほか、「めざす教師像」をテーマにしたパネルディスカッションや、高校生の質問に在学生が答えるコーナーを実施しました。

参加した高校生からは、「同世代や大学生のいろいろな意見が聞けて、教師になりたい気持ちが強くなった」「同じ目標をもつ仲間がたくさんいることを実感した。自分の夢について深く考えることができた」などの感想が寄せられました。



学校の授業風に大学を紹介



在学生の案内で施設見学



箱崎雄子准教授による英語の授業



町頭義朗教授による数学の授業

加盟校出身学生・卒業生の紹介



やまもと りお
山本 莉央 さん

学校教育教員養成課程社会科教育専攻3回生
八尾高等学校2015年度卒



—高校時代の思い出は？

ギター部に所属していました。入部した時は先輩が1人、1年生が私を含め3人しかいませんでした。部室の掃除から始めて、校内イベントで演奏したり、地元のラジオに出たりしました。このままだと廃部になるから後輩を集めようとか、高校生らしくやりたいことをやろうという感じでした。青春でしたね。

—なぜ社会科教育専攻に？

大学で心理学と歴史を学びたいと思っていました。社会科教育専攻なら、歴史はもちろん、児童の心理なども学べるので選びました。今は哲学・倫理学を専攻していて、特に倫理学に興味があります。授業では、なぜ人を殺してはいけないのか、真実の愛とはどういうものかなど、日常では話さないようなことを真面目に話しあっています。すごく面白いです。

—教育実習はどうでしたか？

実習先の先生に「子どもたちにもっと注意していいよ」と言われ、どの程度怒っていいだろうと悩みました。線引きが難しく、子どもを預かるというのは大変

なことなんだと実感しました。

—おすすめの勉強法は？

力を入れて勉強する部分とそうでない部分をはっきりわけていました。例えば英語だと、発音記号を重点的に勉強して、そこは確実に点数を取るといようなやり方です。得意な教科をのばして、最高点まで取ろうという気持ちでやりました。

—大学生活を有意義に過ごすには？

大学生活はダラダラ過ごそうと思えばいくらでもできます。でもそれではもったいないと、3回生の今になって思います。留学、ボランティア、旅行など、社会人になったら絶対に時間がなくてできないので、どうしようと思う時間があったら、とりあえずやってみるほうがいいと思います。私は1、2回生の頃はサークルなどで忙しくしていたので、これからは友達と旅行を楽しみたいです。



なかた あやね
仲田 絢音 さん

養護教諭養成課程4回生
泉陽高等学校2014年度卒

—高校時代の思い出は？

学校の行事が大好きで、特に体育祭が思い出に残っています。3年間ずっと応援団に所属し、60人でダンスして、団歌を歌い応援しました。

—なぜ養護教諭になろうと？

中学校の部活の顧問が養護教諭の方でした。優しいだけでなく、怒るときはきちんと怒る。

だけど、生徒の表情や態度の微妙な変化にすぐ気づいて、話を聞いてくれる。そんな姿に憧れました。

—養護教諭養成課程のいいところは？

先生方はいい方ばかりだし、学生もみんな穏やかで優しく、人の心がわかる人が多いので居心地がいいです。授業は実技や、開業医の方が実際の患者さんの写真を使って症例を説明する講義などもあります。

—クラブ・サークルは何を？

アメリカンフットボール部のマネージャーです。人

との繋がりが濃く、先輩後輩はもちろん、OBOG、他大学や関西学生アメフト連盟の人など、たくさんの人と関わることができて楽しかったです。

—おすすめの勉強法は？

受験の時は、ストップウォッチで勉強時間を測りました。休憩を除いて10時間を目標にしましたが、どう頑張っても8時間位が限界。12時間勉強したとか言う人がいても、嘘だなと思って焦らずに済みました。他にはその日の勉強計画を紙に書いて、終わるまでは寝ないと決めていました。勉強量を目に見える形にすることで、効率良く勉強できたと思います。

—大学生活を有意義に過ごすには？

部活が忙しくて学校でのボランティアなどには参加できず、後悔したこともありましたが、でも部活を通して子どもと関わることができ、現場に接する機会はその気になればいくらでも見つけられると今は思っています。大学は最後の学校生活なのだから、就職や社会人になることを見据えたことばかりでなく、学生らしいことをいっぱいやると思います。



加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府教育センター附属高等学校

本校は、平成23年(2011年)に府立大和川高等学校(普通科)を改編し、大阪府教育センターと一体となった高等学校(普通科単位制)として全国で初めて誕生しました。大阪の教育を先導するナビゲーションスクールとしてのミッションを担うこととなり、今年度で8年目を迎えています。「共に学び、共に敬い、共に高まる」を教育目標とし、「変化の激しい社会の中で感性を豊かに、生き抜く子どもたちを育てる学校」をめざしています。



学びのクローバー

本校のシンボル「学びのクローバー」。本校の教育を表現するキーワードでもあります。四葉のそれぞれの葉に「発見」「探究」「感動」「自信」を配し、本校で獲得してほしい「学び」も表しており、校章にもデザインされています。本校における様々な教育活動とおして、目標に向かってチャレンジする中で自己の可能性を「発見」し、知識や技能を最大限に活用する「探究」的な学習活動によって自立への歩みを進めていきます。仲間たちとともに多様な活動に取り組み、全力でやり遂げた「感動」を分かち合い、自己有用感を育み、たくましく生きる「自信」を獲得します。そして、この「自信」をもとに新しい目標にチャレンジ



していく中で新たな「発見」に出会うという、無限に続くスパイラルな教育活動によって主体的に自己を確立し、夢の実現に向け努力する生徒を育成する本校の理念を表しています。

本校の学びの柱

理念を実現するために開校と同時に、学校設定教科「探究」を立ち上げました。社会に出ると、答えが一つではない場面に出会うことが増えます。そのような中で、根拠に基づき、自分の思いや考えも大切にしながら、多くの人々が認める「納得解」を如何に導き出すか、そのための資質・能力を教科横断

的に学べるようにしています。学校設定科目「探究ナビ」を設置し、今日まで少しずつ変更を加えながら取り組んでいます。

文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、「総合的な学習の時間」の代替として探究ナビを各年次2単位、2時間連続で展開しています。

探究ナビの取り組み

1年次は「人とつながる」をテーマに人間関係形成力の育成をめざしています。職員研修で共通理解を図り、クラス開きを経て、より良い集団づくりから始め、1年の終わりに、劇団員を招へいし、演劇的手法を取り入れて「劇づくり」を行っています。2年次は「社会とつながる」をテーマに社会形成能力、自己理解力の充実をめざし、地元商店街との連携を取りながら、活動を行っています。3年次は「未来を拓く」をテーマに1・2年次で身に付けた力を活用し、教育センターと連携した講義や近未来を想定した研究等を行い、新たな商品、サービス等について考える活動を通して、最終的に自己実現につながるようにしています。



大阪の教育を先導するナビゲーションスクール

本校のナビゲーションスクールは、教育を先導する学校の他、夢や志を育む教育実践、学力向上を促進する質の高い授業、充実した教育環境の構築を掲げています。大阪府教育センターとの連携のもと、文部科学省の調査研究事業を受け、カリキュラム・マネジメントの実践等による授業改善、学校独自の「クローバープラン(確かな学力や探究力の育成、キャリア教育の実践、自己実現のためのサポート等)」の推進、ICEモデルを導入した授業の再構築等、基礎・基本の徹底からPISA型学力をはぐくむ探究活動まで、生徒の個性に応じて、可能性を最大限に伸ばす教育を実践しています。

学生らがサッカーJ1の試合でパフォーマンスを披露

本学とパートナーシップ協定を結んでいるサッカーJ1・セレッソ大阪の主催試合で、芸術表現専攻音楽表現コースの学生らが結成した「Daikyo Jazz Orchestra」、モダンダンス部、本学公式キャラクター「やまお」が、試合前パフォーマンスをしました。

1曲目は『望遠鏡の外の景色』でスタイリッシュに決め、2曲目の『NIPPON』ではセレッソの旗を振りながら、はつらつとした演奏とダンスを披露しました。最後にセレッソの応援歌『CEREZO(さくら)満開』が始まると、やまおが登場。ダンサーたちの中心に立ち、一緒に踊りました。

ハーフタイムには、セレッソのチームキャラクター「マダム・ロビーナ」とやまおがフィールドに登場し、観客席から声援を受けました。セレッソが勝利をおさめると、やまおは再びロビーナと共にフィールドに立ち、喜びに沸くサポーターたちと一緒に勝利の舞を踊りました。



柏原キャンパスの「虫」や「木」でワークショップを実施

本学理科教育専攻、美術教育専攻の学生、教員らが、「水都おおさか森林の市2018」でワークショップを開催しました。本学公式キャラクター「やまお」も登場し、来場者と触れ合いました。

理科教育専攻の学生らは、柏原キャンパスで採集したモリチャバネゴキブリ、ヤマトシロアリ、ワラジムシとのふれあい体験を実施。都会では嫌われ者の虫たちが、山では枯れ木や落ち葉などを分解する大切な役割を担っていることを説明し、虫たちの習性を利用した簡単な実験などをしました。

美術教育専攻の学生らは、台風被害木を使って工作するワークショップを開催しました。来場者たちは木の根をスケッチしたり、カットした木の幹に葉や実などを貼り付けて置き物を作ったりしました。材料の枝や幹は、2018年夏に関西圏を襲った台風により被害を受けた木で、柏原キャンパスで拾い集めたものが使われました。



編集後記

昨年後半以降、あちこちで「平成最後の」という言葉が踊りました。そんな平成も、いよいよ残りわずかですね。

日本では現在、この昭和や平成などの「元号」による年代表記と西暦による表記、どちらも使用しています。併用するのはややこしい、西暦に統一すればいいのに、という声もあるようです。確かに、書類に生年月日を書かなきゃいけない時なんかは、ちょっと混乱することもあります。でも、今こうして元号が変わるという節目を迎えて、多くの人が過去を振り返ったり、未来に思いを馳せたりしています。西暦には100年に一度の「世紀」という区切りがありますが、それとはまた違うタイミングで一区切りつけて、少し気持ちを新たにできるなら、それはそれで悪くないんじゃないかなと思ったりするのですが、皆さんはどう考えますか？

(F)

大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

@OsakaKyoikuUniv



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Instagram

@osakakyoikuuniv

イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。